

# Cast List 出演者リスト

## 南漣会合唱団 29

T1	尾崎 納 福家 伸治	白神 理平 平松 朋記	新 栄一郎 松波 謙至	月川 兆 森本 眞一	長田幸一郎	
T2	今村 肇 戸田 勝	大内 一 徳重 孟範	篠原 悠夫 藤田 徹夫	白井 清貴 宮内 泰	白石 太良 村山 徹郎	曹 明伸 山田 稔
B1	石原 潤一 横田 卓郎	瀧井 尚志 江尻 竜優	辻 秀郎 中澤 篤哉	服部 榮治	花澤 光正	
B2	赤崎 弘平 松井 繁明	今道 隆夫 牟田 岑男	扇田 豊 森田 清	小倉 裕 安井 永	田中彰一 和田 昭夫	



## 東京南漣会合唱団 31

T1	岡本 直久 原田 佳晃	鎌田 禮章	坂井 和久	鈴木 重雄	田和 達夫	
T2	岡田 皓三 富永 雅俊	黒田 俊之 野津 直樹	小林庄次郎 勝内 隆造	周藤 克志 森谷 泰明	鶴田親治郎	
B1	今井 啓太 祖父江浩之	梶谷 俊一 田中 利治	宮沼 亮 徳山 巖	川上 彰一 永田 利地	木公 寧志 宗像 弘信	木田 豊 柳原 恒久
B2	井上 嘉雄 中川 博義	上村 正昭 平手 彰	掛合 正宏 柚木 裕文	北野 友一 吉岡 稔	諏訪部和彦 中川 清	



## 六甲男声合唱団 35

T1	後久 義昭	小林 和生	佐々木英洋	松岡 茂雄	
T2	赤司 健	大隅 国雄	加藤 雅夫	河原 達	桐ヶ窪 卓
B1	肥塚 禎夫	寺井 洋一	花岡 亜光		
B2	伊原吉之助	浮田 順一	加輪上敏彦	大谷 遷	佐々木道治
B2	丹下 豊吉	深井 邦男	前田 豊治	松井 嘉和	山本 和洋
B2	山本 稔	吉永 豊彦			
B2	東 尚良	石井 陽一	井上 和雄	田中 安夫	坪内 啓二
B2	徳重 光彦	土居 宗一	永井 哲郎	長央徳太郎	増川 真澄
B2	吉田 哲朗				



## 東京六甲男声合唱団 29

T1	進藤 宏	竹本 鉄三	橋田 晋治	藤田 善弘	益子 正稔
T2	宮元 芳樹	三好 和通			
B1	池田 信彦	亀田 卓一	岸本 正義	村瀬 宏	横川 裕司
B1	浅井彰二郎	上山 維介	菊川 春三	静川 靖敏	高倉 勇
B1	田邊 弘幸	團野 廣一	藤島 正孝	藤本 淳三	溝口 正平
B2	伊藤 正昭	滝沢 章三	竹内 克広	谷河 義久	長野 一宇
B2	峯崎 裕				



## マーキュリー・グリーン・クラブ 59

T1	石林紀二郎	小澤 莊二	鈴木 重雄	関 顕介	田口 和義
T2	角田 清	中尾 丈夫	中山 光雄	久内 荘一郎	藤原 浩
T2	益子 正稔	丸山 達雄	吉岡 省吾	和田 邦博	
B1	幾田 雅彦	池田 信彦	石渡 尚夫	大畑 道夫	亀井 滋
B1	小室 滋	篠崎 博	鈴木 誠司	田村啓一郎	長尾 明信
B1	平野 真	松田 次郎	宮内 隆造	森田 信市	
B2	石原 隆	井上 清彦	片山 修	加藤 孝雄	黒田 修一
B2	武田三千男	徳山 巖	永井 宏	蓮 隆詔	藤本 淳三
B2	藤原 尚	星加雄一郎	松本 博		
B2	有馬 賢次	泉原 昭夫	上崎 雅也	魁生 勝祐	鈴木 堅仁
B2	竹内 克広	高倉 勇	野老 正明	富田 勇一	中島 靖之
B2	府川 朝次	光瀬 靖彦	村永 知大	村本 卓生	矢口 和彦



一緒に歌いませんか？

- 南漣会合唱団 [E-mail] [acasa.wadacosmos@kuf.biglobe.ne.jp](mailto:acasa.wadacosmos@kuf.biglobe.ne.jp)
- 東京南漣合唱団 [E-mail] [supertenkam4612@yahoo.co.jp](mailto:supertenkam4612@yahoo.co.jp)  
[Web] <http://www.osaka-cu.com/tnanreikaichor/>
- 六甲男声合唱団 [E-mail] [cmkilly@leto.eonet.ne.jp](mailto:cmkilly@leto.eonet.ne.jp)  
[Web] <http://rokkomcinfo.web.fc2.com/>
- 東京六甲男声合唱団 [E-mail] [ym@sky.plala.or.jp](mailto:ym@sky.plala.or.jp)  
[Web] <http://home.kobe-u.com/tokyo/hp/tokyorokkoudansei/index.html>
- マーキュリー・グリーン・クラブ [E-mail] [ikedagf@jcom.home.ne.jp](mailto:ikedagf@jcom.home.ne.jp)  
[Web] <http://jfn.josuikai.net./circle/mgc/>

## 第7回

# 旧三商大OB男声合唱団 交歓演奏会

- 南漣会合唱団・東京南漣会合唱団(大阪市立大学OB合唱団)
- 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団(神戸大学OB合唱団)
- マーキュリー・グリーン・クラブ(一橋大学OB合唱団)



2015年11月21日(土)

ティアラこうとう・大ホール  
主催:マーキュリー・グリーン・クラブ

# Greetings ごあいさつ

本日は、私共の第7回交歓演奏会にご来聴いただき有難うございます。

現在の大阪市立大学、神戸大学、一橋大学は、第二次大戦後の学制改革まで、それぞれ大阪商科大学、神戸商業大学、東京商科大学を称しておりました。学制改革により、各大学の「形」は変わりましたが、旧三商大の伝統は引き継がれ、戦前から今日に到るまでゼミナール、体育会系、文化系サークル活動などを通し、学術、スポーツ、文化各方面で深い交流を続け、音楽活動におきましても、戦時中を除き、現役学生による「交歓演奏会」が持たれて参りました。

残念ながら、現役大学生における男声合唱人口の減少により、学生による「交歓演奏会」は中断の已む無きに到っておりますが、私共OBにとりましては、青春の1ページを飾るものとして、記憶は鮮明でありました。

この間、それぞれのOBを母体として、南漣会合唱団(大阪市立大学)、六甲男声合唱団(神戸大学)、マーキュリー・グリーン・クラブ(一橋大学)が設立され、OB以外の愛好家をも迎え活動を続けておりましたが、OBによる「旧三商大交歓演奏会」の開催機運が高まり、2003年に第1回を東京調布で開催し、その後隔年に大阪、神戸と巡り、早いもので3巡目に入り、第7回交歓演奏会の運びとなりました。また、次回、大阪における第8回演奏会もスケジュールに入ってきております。

歌心のある者は拒まず、年齢制限もありませんから、ステージには高齢者も目立ちますが、心は青春そのもの。それぞれの演奏曲に挑戦致します。

どうぞ最後までお楽しみいただければ幸いです。

2015年11月21日(土)  
南漣会合唱団  
六甲男声合唱団  
マーキュリー・グリーン・クラブ



第6回 旧三商大OB合唱団交歓演奏会 2013年11月30日(土) 於:神戸文化ホール・大ホール

# Program プログラム

## 南漣会合唱団・東京南漣会合唱団

男声合唱組曲

### 海鳥の詩

作曲:廣瀬 量平 作詞:更科 源蔵 指揮:山田 稔 ピアノ:石幸 千照

1. オロロン鳥(ちょう)
2. エトピリカ
3. 海鶴
4. 北の海鳥

## 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

### 珠玉の名曲集

指揮:井上 和雄 ピアノ:島崎 央子

1. Let Me Call You Sweetheart
2. Amazing Grace
3. ヴォルガの舟歌
4. カリンカ
5. Volare
6. Al Di La

## 休憩

## マーキュリー・グリーン・クラブ

男声合唱による

### オペラアリア名曲集

指揮:永井 宏 ピアノ:中野 マリ ハープ:片岡 詩乃 編曲:吉岡 弘行

- |                                |          |                        |
|--------------------------------|----------|------------------------|
| 1. Una furtiva lagrima         | (人知れぬ涙)  | G.ドニゼッティ作曲 歌劇「愛の妙薬」より  |
| 2. Ein Mädchen oder Weibchen   | (恋人か女房か) | W.Aモーツァルト作曲 歌劇「魔笛」より   |
| 3. O du mein holder Abendstern | (夕星の歌)   | R.ワーグナー作曲 歌劇「タンホイザー」より |
| 4. E lucevan le stelle         | (星は光りぬ)  | G.プッチーニ作曲 歌劇「トスカ」より    |
| 5. Che gelida manina           | (冷たい手)   | G.プッチーニ作曲 歌劇「ラ・ボエーム」より |

## 合同演奏

男声合唱組曲

### 水のいのち

作曲:高田 三郎 作詩:高野 喜久雄 指揮:永井 宏 ピアノ:中野 マリ

1. 雨
2. 水たまり
3. 川
4. 海
5. 海よ

### 南漣会合唱団・東京南漣会合唱団

#### ■ 曲目解説

「海鳥の詩」 山田 稔

作曲の廣瀬量平氏(1930-2008)は北海道函館市生まれ。(現)北海道大学教育学部を卒業後、東京芸術大学作曲科に入学、1961年に卒業後、作曲・教育の両面で活動しました。作曲では管弦楽・吹奏楽・器楽・邦楽などの様々な分野で多くの作品を残しています。今回演奏する男声合唱組曲「海鳥の詩」は、廣瀬氏が同じ北海道出身で同世代の詩人、更科源蔵氏の1952年に出版の詩集「無明」の中の「オロロン鳥」と「海鷗」の二篇の詩に感銘を受け、新たに「エトピリカ」と「北の海鳥」の二篇を加えた4曲を四楽章の組曲として1979年に出版されました。厳しく過酷な自然の中で風雪に耐え、力強く、たくましく生きている北の海鳥に敗戦後の暗くわびしい時代を生きた日本人の姿を託してうたっています。男声合唱としての初演は1981年。私たちは廣瀬氏の名曲である「海鳥の詩」を聴いていただくお客様の心に届く演奏にしたいと強く想っています。

#### ■ 廣瀬氏自身の解説

- 第一曲「オロロン鳥」・・・断崖の岩の上にとまり、黙々と海を見るオロロン鳥、孤独な漂泊の思いと彼方へのあこがれ。
- 第二曲「エトピリカ」・・・霧の中をまっしぐらに飛ぶ不思議な鳥エトピリカ。その狂熱的なひたむきさ。りんりんと風は鳴り、今もまたエトピリカは一心不乱に飛翔する。
- 第三曲「海鷗」・・・じつとすくまる海鷗、あおく冷たくうねる海流は磯に砕けて、その流れは行方もしれない。鷗は風や潮騒の音をきいているのだろうか。
- 第四曲「北の海鳥」・・・きらめく北の海を飛ぶ海鳥たち。風雪をものともせず生と死の揺れ動くさなかを、一杯に飛ぶ海鳥たちへの賛歌。この組曲の終曲である。

### 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

#### ■ 曲目解説

「珠玉の名曲」 井上 和雄

今日は、「珠玉の名曲」と銘打ってアメリカとロシア、そしてイタリアの名曲を集めてみました。解説するまでもない有名な曲ばかりですから、とにかく歌うわれわれが楽しむのと同じように、皆さま楽しんで頂けることを願ってステージに上ります。

最初の「恋人と呼ばせて」は、その昔パット・ブーンの甘い声にアメリカを想い、心をときめかせた懐かしい曲であるのはご存知の通りです。「アメイジング・グレイス」の作詞はイギリス18世紀のジョン・ニュートンと云われていますが、作曲が誰だったのか、あるいはそれがイギリスだったのかアメリカだったのかははっきりしません。しかしアフリカ系アメリカ人の中で広く歌い継がれた名曲であることははっきりしています。いまや日本でもポピュラーになりましたが、アメリカを代表する名曲であることは誰もが認めるでしょう。

ロシアの「ヴォルガの舟歌」もよくご存知のロシア民謡ですが、今日は昔来日したドン・コサック合唱団の編曲で歌います。「カリンカ」は、われわれ六甲男声合唱団の大先輩である辰馬さんがそのドン・コサック合唱団の歌に触発されて編曲したものです。いずれもわれわれの多くが若い頃もっとも愛唱した合唱曲で、かつて六甲男声合唱団がもっとも得意としたものでした。その伝統を汚さぬように歌いたいと思っています。

イタリアの2曲は、いずれもサンレモ音楽祭で優勝した名曲であるのはこれもご存知の通りです。いずれもイタリア人の情熱をそのままに歌い上げたもので、歴史に名を残した名曲です。「ヴォラーレ」は、「飛んで行け、あの人の青い目を目指して飛んで行け」と歌い、「アルディラ」は、「その向こうに」とでも訳すべき言葉ですが、全てを越えて、その向こうにあなたが居る、と熱い思いを歌います。

### マーキュリー・グリー・クラブ

#### ■ 曲目解説

「オペラアリア名曲集」 大畑 道夫

演劇やオペラには恋愛ものが数多く登場する。恋愛は人間にとって本質的な感情であり誰もが経験するものなので、わかりやすく共感できる内容だからではないだろうか。中でもオペラのストーリーで圧倒的に悲恋が多いのは、心の琴線に触れ、深い感動を呼び起こすからであろう。今回の5つのアリアの内、「トスカ」のカヴァラドッシが処刑を前にしてトスカへの切々たる思いを歌い上げる「星は光りぬ」、「ラ・ボエーム」のロドルフォがミミの手を取って愛しげに歌う「冷たいこの手」、そして「タンホイザー」の歌合戦のライバル、ヴォルフラムが密かに恋するエリーザベトを思って歌う「夕星の歌」以上の3作品は悲恋をテーマにしている。歌姫トスカはカヴァラドッシが銃殺され、後を追って城壁から身を投げる。ミミは病死だが、貧しいロドルフォは彼女を救うことが出来なかった。エリーザベトは恋人タンホイザーの罪の許しを請う為、自らの命を捧げる。

後の2曲では、恋が成就する展開になっている。「魔笛」のパパゲーノは恋に恋する男で自分に「恋人か女房がいれば」と謳いあげ、パパゲーノという恋人を得る。「愛の妙薬」のネモリーノは農場主の娘アディーナに恋しているが、受け入れてもらえない。ところが、彼が愛の妙薬を買う為に軍隊に志願したことを知り、アディーナが密かに涙を流しているのを見て、自分が愛されていることを知り感動して「人知れぬ涙」を歌う。以上5つのアリアの中では「トスカ」、「ラ・ボエーム」、「タンホイザー」の3曲はピアノの前奏が如何にも悲恋をイメージさせるが、「人知れぬ涙」の前奏は悲恋を予感させているにも関わらず、実際には恋が成就して終わる。これは裏に愛のほろ苦い思いがあることを示唆していると思われる。

### 合同演奏

#### ■ 曲目解説

「水のいのち」 片山 修

日本で合唱に関わっている者であれば知らぬ者なしと言える程の名曲であり、合唱コンクールなどでもしばしば取り上げられる定番の一つになっている。

作曲家で指揮者の高田三郎(1913 ~ 2000)が1964年にTBSの委嘱で混声合唱組曲として作曲したもの。同年11月に日本合唱協会(山田和男指揮)により初演されている。

その後女声合唱版、男声合唱版も編曲され、更に作曲者の没後、後継者達によって管弦楽伴奏版や弦楽伴奏版もリリースされ、バージョンの多さに於いても異例の豊富さを誇っている。

組曲の構成として、第一曲で「雨」が天から地へと降り注ぐところから始まり、第二曲「水たまり」、第三曲「川」、第四曲「海」と、高いほうから低い方への流れを経て、終曲の「海よ」ではその水が再び天にのぼり行く姿が高らかに詠われる。

我々の命、生の営みを水に託して巡り行く輪廻を描いているようでありながら、一方で「空の高みへ、--- 見えない翼、一途な翼ある限り、---のぼり行け」と我々の魂の天へ向けての昇華を訴えているようでもある。

実はこの曲はイタリア語版も出版されているが、題名はL'Anima dell'acqua、つまり「水の魂」、そう我々が水に託したものは、我々の命であり魂ではなからうか。

# Profile Of Choir

## 合唱団のプロフィール

### 南漣会合唱団・東京南漣会合唱団

1940年に大阪商科大学(現大阪市立大学)グリークラブとそのOBによって誕生し、その年に第1回演奏会を開きました。南漣会(なんれいかい)の名称は、漣標(みおつくし)を市章とする大阪市の最南端に大阪市立大学が位置するところに由来しています。その後の困難な時期を乗り越え、1950年代から市大グリークラブ定期演奏会の賛助出演など本格的な活動期に入り、1980年からは隔年の定期演奏会を開催しています。また、OBだけでなく、多くの男声合唱愛好者にも参加いただいています。

かつてはスピリチュアルズ、ロシア正教聖歌などの重厚な響きを主なレパートリーにしておりましたが、それらに加えて日本の合唱曲も多く演奏しています。来年は市大グリークラブが創立90周年を迎え、それを記念して2017年1月には市大グリークラブ第65回定期演奏会と合同の第25回定期演奏会を開催予定です。

東京南漣会合唱団(TNG)は今年創団12年目を迎えますが、昨年11月には創立10周年記念演奏会を浜離宮朝日ホールにて開催し、500名を超える集客で大成功を収めました。新年度を迎え、次の10年へ向けた新たなビジョン作りに取り組むとともに月2回の定期練習と強化合宿で、本日の交歓演奏会に備えてきました。また、現在では団員が待望の40名を超え、来年11月に石橋メモリアルホールで開催予定の第6回定期演奏会へ向け一層練習に励んでいく所存です。大阪の“本家”との合同演奏も今回が4回目ですっきり定着してまいりましたが、私たちのモットーである「今こそ青春」の熱き思いを胸に精いっぱい演奏いたします。本日は大阪と東京、そして大阪市立大学グリークラブの学生たちも加わった総勢80名の南漣会合同ステージです。



【指揮】山田 稔 (やまだ みのる)

大阪府立桜塚高校音楽部指揮者を経て、大阪市立大学グリークラブ学生指揮者。昭和43年法学部卒業。卒業後は豊中混声合唱団、阪急東宝グループ男声合唱団で、指揮・合唱活動。平成18年から南漣会合唱団指揮者。大中恩、磯部徹、高田三郎など、詩情あふれる合唱音楽を愛す。好きな言葉は「心で歌う」。

尊敬する指揮者は須賀敬一氏。



【ピアノ】石幸千照 (いしこう ちあき)

大阪芸術大学演奏学科を全額免除生として卒業。同大学芸術専攻科修了。演奏学科研究室賞受賞。卒業演奏会、関西新人演奏会。これまでに、岡坂恭子、U.シュニーベルガーの各氏に師事。関西フィルハーモニーオーケストラ、ロシアにてロシア国立アカデミーオーケストラと共演。

大阪芸術大学伴奏要員を経て、現在、関西女子短期大学非常勤講師、ヤマハ音楽教室講師、合唱団4団体のピアニストを務める。全日本ピアノ指導者協会会員。

### 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

1954年に神戸大学グリークラブのOBを中心に創立されました。その後神戸大学以外の大学OBや一般の合唱好きも入団して、オーソドックスな男声合唱団に成長しました。昨年11月には、創立60周年記念定期演奏会を、神戸新聞松方ホールで開催し、内外から好評を博しました。これまではフランス・ドイツへの演奏旅行を始め、国内においても隔年開催の定期演奏会、毎年開催の五つの男声合唱団の集い(アンコールの会)や本日の旧三商大OB交歓演奏会等、多彩な活動を続けております。

個性的な団内指揮者を3名有し、欧米の古典曲や邦人作品、さらには世界の民謡など、幅広いレパートリーを持っております。今年からまた新たな歴史を刻み始めましたが、各演奏会を目標に、毎週火曜日の練習に励んでおります。

ホームページ <http://rokkomcinfo.web.fc2.com/>

東京六甲男声合唱団(略称:TRMC)は、2002年に東京在住の神戸大学グリークラブOBを中心に発足しましたが、爾来門戸を広く開放して旧三商大の仲間や他大学OBも積極的に迎え活発な活動を続けてきており、その結果他大学出身者は今も増え続けています。2006年4月以来、メインの発表の場である定期演奏会を2年毎に開催し、来年5月21日には第6回定期演奏会を杉並公会堂にて行います。その演奏会では去る4月に逝去された我が団の顧問故横山昭氏から寄贈された男声合唱曲の楽譜約650曲の中からスピリチュアルズ5曲を選んで演奏する予定です。TRMCは毎週火曜日夜、神田キリスト教会でのハードな練習とその後の杯を片手の音楽談義をこよなく愛する「永遠の青年」グループです。

ホームページ <http://home.kobe-u.com/tokyo/hp/tokyorokkoudansei/index.html>



【指揮】井上 和雄 (いのうえ かずお)

六甲男声合唱団指揮者兼音楽監督、女声合唱団クールフルール指揮者。神戸大学経済学部卒。在学中、グリークラブ指揮者。著書に「モーツァルト 心の軌跡」(サントリー学芸賞)、「ベートーベン闘いの軌跡」・「ハイドン ロマンの軌跡」・「シューベルトとシューマン—青春の軌跡」(いずれも音楽の友社)、「ロンドン音楽紀行」(神戸新聞社)、「さらばヘーゲル」(日本経済評論社)など多数。また、画家としても大阪で毎年個展を開催。神戸商船大学(現神戸大学海事学部)名誉教授。



【ピアノ】島崎 央子 (しまざき ひろこ)

神戸女学院大学音楽学部音楽科器楽専攻ピアノで学ぶ。1992年同学部を首席で卒業。大江章子、山上明美、ゲイリー・スマイルの各氏に師事。ハンナ・ギュリック・スエヒロ賞を受賞。第62回東京読売新人演奏会に出演。神戸女学院大学オーケストラ、関西フィルハーモニー管弦楽団と協演。2004年よりバイオリニストの故稲庭達氏と演奏活動を続けて来たほかソロ演奏でも活躍する。2010年8月・2014年10月には、ベートーベン・ピアノ/四大ソナタを一日で連続演奏し、絶賛を博す。また、六甲男声(2006年〜)ほか伴奏ピアニストも務めている。

### マーキュリー・グリー・クラブ(MGC)

MGCは、1999年5月に一橋大学男声合唱団「コール・メルクール」のOBによって設立されました。中心メンバーが学生時代にお世話になった荒谷俊治先生(前日本指揮者協会会長)のアドバイスもあり、設立以来、団員は出身大学にとらわれないという考えのもとで運営して参りました。こうした考え方は、現在のMGCを形作る重要なものでした。お蔭で、今では団員の4分の1以上が「コール・メルクール」のOB以外であり、出身校を全く問わない実に和やかな風土を持つ“混成合唱団”となっています。そして、そうしたメンバーはそれぞれの持ち味を発揮し、歌に、団の運営に、練習後の“放課後”にと、自主的に大活躍して合唱ライフを楽しんでいます。また合唱団らしく、それぞれが思い思いのメンバーでカルテットを結成して楽しんでいます。

合唱団は、何と言っても合唱芸術の追求が基本であり、発足後4年経った2004年からは、合唱界の至宝である田中信昭先生に指導をお願いし、様々な音楽的体験を重ねています。「鎮魂歌」など内容の重い合唱、シアターピースで歌う合唱、1250年以上毎年欠かさずに行われて来た奈良東大寺お水取の「修二曾讚-抄-」などなどで、こうした楽曲の指導を通して、練習の度に団員は“目からうろこ”を体験しています。また、“日本人が本来持っている音楽とは何か”ということも、先生の指導のもと大きなテーマです。もちろん、男声合唱の定番はほぼレパートリーになっていますし、「カンツォーネ」、「オペラアリア」などの親しみやすい曲も男声合唱曲に編曲し初演しています。こうした合唱曲を披露する定期演奏会も10回を数えましたが、加えて、これまで6回にわたり本場ヨーロッパに演奏旅行に出かけ、及ばずながら日本人の音楽を紹介しつつ、国際親善にも努めています。中でも、東日本大震災でお世話になったオーストリアの方々への御礼を兼ねて、2012年に実施した演奏旅行は記念すべきものでした。因みに、海外演奏旅行の事始めは、「六甲男声合唱団」のK氏の勧めによるものでありました。そうした良い関係のライバル同士が、本日どういう合唱を繰り広げるか、お楽しみ頂けたら幸いです。



【指揮】永井 宏 (ながい ひろし)

マーキュリー・グリー・クラブ 常任指揮者。一橋大学卒業。在学時代一橋大学男声合唱団コール・メルクール指揮者。指揮法を荒谷俊治氏(前日本指揮者協会会長)、故浜田徳昭に師事。

ピオラを東義道氏に師事。アマチュアオーケストラや合唱団の指導に豊かな経験を持つ。コール・アネモネ常任指揮者。三井住友海上管弦楽団名誉指揮者。



【ピアノ】中野 マリ (なかの まり)

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。お茶の水女子大学大学院修士課程修了(演奏学専攻)。西尾悠美子、富本陶、遠藤秀一郎の各氏に師事。

リサイタル、室内楽、伴奏の演奏活動を行う。東京交響楽団などオーケストラと、ショパン、モーツァルトの協奏曲を共演。アメリカ・ペンシルヴァニア州の音楽祭、中国音楽家協会の招聘による成都、北京、瀋陽でのリサイタルが好評を得た。2000年よりマーキュリー・グリー・クラブのピアニスト。埼玉学園大学、川口短期大学非常勤講師。



【ハープ】片岡 詩乃 (かたおか しの)

東京生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学及び同大学院を卒業。1999年第11回日本ハープ

コンクール「ハープとフルートデュオ部門」において第一位。

これまでに畑岡子、井上美江子、篠崎史子、イザベル・ペランの各氏に師事。今現在、国内外オーケストラでの演奏を中心に活躍中。現代音楽の分野において、多くの新曲を含む楽曲を演奏しており、2010年、王子ホールで開催された「片岡詩乃ハープリサイタル」においては、高橋悠治氏に新曲作品「そしてまた」を委嘱初演。各オーケストラやアンサンブルでのCD録音、TV収録にも多数出演しており、クラシック以外のジャンルにおいても、NHK「SONGS」等に出演するなど、幅広く活動している。